



United Nations
World Food
Programme

子どもの飢えをなくすために

～今わたしたちがすべきこと～

子どもの飢餓がもたらす課題

子どもの飢餓は人類の将来に取り返しのつかない支障をもたらしかねません。即ち、それは数百万人規模の生命を奪い、個々人の心身の発達を遅らせるとともに、貧困地域の人的資産形成にも支障をきたし、さらには国家発展をも遅らせず。世界には、1年でおおよそ600万人、5秒に1人の割合で、5歳未満の子どもたちが、栄養不良に関連する原因で亡くなっています。これは世界全体の5歳未満で死亡するおおよそ1,100万人の半分以上を占めています。

多くの人々がスーダンのダルフル地方で起きたような紛争や、2004年12月の津波のような大規模自然災害で命を落としています。しかしながら、子どもの死亡のほとんどは紛争・大災害といった緊急事態以外を原因にして起きています。子どもの死亡の9割はおおよそ40か国の開発途上国で起きているのですが、これらの国々では近年紛争や自然災害が発生していないのです。2億9千万あまりの15才未満の子どもたちが、表面化することのない衰弱性の飢餓にさらされています。これは長年にわたって日々必要とされる適切な食べ物を摂取できないことを原因としています。こうした慢性的な飢餓状況は、国際社会で十分に認識されていませんが、多くの子どもたちの病気や死亡の原因となっているのです。

たとえ生き延びることができたとしても、子どもの栄養不良は心身の発達を妨げ、一生回復できない場合もあり、将来に取り返しのつかない影響を及ぼします。現在、おおよそ1億5千万に及ぶ5才未満の子どもたちが、年令の割には背が低いというような身体的な発育不全(stunting)に陥っています。その発育不全の状況は次の世代へも引き継がれることとなってしまいます。少女の骨格が、特に骨盤が十分に発達しないと、出産の時に母子ともに命が危険にさらされます。青年期に平均より10kg体重が少なくなる毎に、その労働生産性は健康に発育した成人と比べて10%で低下すると見られています。成長後の背の高さは労働生産性および労賃と正比例し、それゆえに家庭レベルでの貧困削減にも関係します。成人になってからの栄養不良のための低身長は早死にもつながり、貧困世帯にショックを及ぼします。

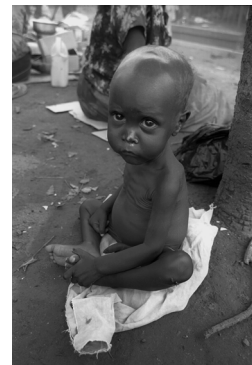
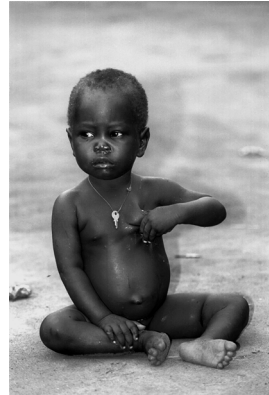
飢餓がもたらす知能発達への影響も、生涯にわたって問題となります。回復不可能なほどに個々人の学習能力や知能指数(IQ)を低下させ、学校教育から得られるはずの恩恵を享受することができなくなります。ガーナ政府の研究によると、発育不良の子どもたちは本来の入学年令よりも遅れて入学するため、おおよそ2年間の学習機会を失うことになります。たとえ入学できたとしても、栄養不良の子どもたちは規則的に学校に通うことができず、成績もふるわず、早くにドロップアウトすることになるでしょう。その結果、必然的に彼らの教育期間は短くなってしまいます。このように、栄養不良に陥った子どもたちは、教育の恩恵に十分にあずかることなく学校を去らざるを得ません。他方で、就学期間が長い女子児童は10代で妊娠することも少なく、栄養の補給も良くなり、次の世代のために知識を習得することができます。

飢餓は多くの人々から、自分自身の人生に寄与したり、他の人々に対して貢献するという機会を奪い去る人類の悲劇です。同時に、国家単位での経済的な破局を意味します。飢餓が経済に与える悪影響は目も当てられないような状況をつくり出します。例えば、アジアの低所得国では労働生産性の低下に伴い、国民総生産(GDP)の6~10%が年単位で失われている結果になっています。これら開発途上国では、飢餓が今のレベルで蔓延すると、飢餓に関係する死亡や障害のために、5,000億米ドルを上回る経済的負担を国に強いることになります。その結果、国民への栄養補給や健康対策に必要な資金もままなくなります。こうして飢餓は飢餓を繰り返し、病気や貧困など飢餓から必然的に派生するさまざまな問題を招くことになるのです。

子どもの飢餓状況

1980年代初頭以来、世界中で飢餓状態にあると認定された人口の割合は、全体の1/5から1/6に減少しており、またその絶対数も若干の減少を示しています。発育不良の就学前の子どもについても、その数は1990年の2億2千万人から2005年にはおおよそ1億5千万人に減っています。人口増加、紛争や自然災害があり、さらには多くの食糧の不足している国々で農業生産性があまり伸びなかった中でも、このような進捗が見られたことは、極めて重視されるべきことです。これは、これまでの取り組み方が効果を発揮していることを表しています。

しかしながら、今後為すべきことは山積しています。国際連合食糧農業機関(FAO)によれば、現在世界で飢餓人口は8億5,200万人。このうち、2億9,600万人は子どもで、その中の3,500万人は中国、7,300万人はインドの子どもたちです。中国とインドでは政府が飢餓問題への対策を実施していますが、残りの1億8,500万人はそれ以外の開発途上国の子どもたちです。さらに、飢餓問題への対応で進捗の著しい中国を除けば、世界の飢餓人口は1980年よりわずかに1,800万人増加しています。



ようやく最近になってわかったことですが、国民総所得や食糧供給が増えても自動的に社会的脆弱者層の人々の飢餓や栄養不良が緩和されることを意味するものではありません。開発途上国では、1980年から2000年の間に、1人当りの国民総生産(GDP)が60%上昇しましたが、慢性的に飢餓にさらされている人々の数は10%程度しか減っていません。貧しく飢えた人々は時として社会的にも政治的にも疎外され、人間としての当然の権利の恩恵にも浴することができません。

教育を受ける機会にも恵まれず、ましてや公共の医療サービスや安全な飲料水の確保もままならない状況にあります。所得は低くかつ不安定で、経済の変動や災害などの被害を最も受けやすい立場にあるため、今の生活ならびにその将来についてもリスクが常につきまとっています。

2000年9月に開かれた国連ミレニアムサミットで、国際社会は平和と安全、開発と貧困といった世界規模の課題にどう取り組むかについて合意。2015年までに世界の飢餓人口の割合を半減させることなど、2015年という期限を定めた8つの目標を設定し、これを「ミレニアム開発目標(Millennium Development Goals・MDGs)」として採択しました。これは実現可能ですが、そのためには国際社会が必死になって取り組む必要があります。

世界の飢餓の半減という目標の達成には、2015年まで毎年2.7%ずつ栄養不良の削減を続けなければなりません。現在41の開発途上国がこのレベルで成果を上げていますが、この41か国では、全開発途上国の人口の40%未満にしかなりません。ミレニアム開発目標実現のためには、新たに子どもの飢餓をなくすために取り組むことが必要になってきます。

子どもの飢餓をなくすために

飢餓ほど子どもたちの将来に禍根を残すものはありません。飢えることなく生きることは誰もが生まれながらにして持っている権利であるはずなのに、実際にはその当然の権利を享受できるのはほんの一握りの子どもたちに限られています。栄養不良は人々の生活や夢を打ち砕くだけでなく、その家族、友人たちさらにはその地域社会にも悪影響をもたらします。飢餓は、持続可能な開発実現への努力をすべて台無しにしてしまうのです。

長期にわたる栄養改善には、家庭や地域社会での栄養不良予防に対する取り組みが鍵を握っています。そのためには、政府、市民社会そして民間部門が個々人 — 特に女性 — や家族、そして地域社会をエンパワーするための資源が必要です。さらに、そのためには栄養豊富な食糧を清潔な飲料水と衛生的な環境とに結びつけることが不可欠です。さらにその実現には、国そして地域レベルで、適切な制度、資源ならびにやる気を伴った受け入れ態勢を築き、維持しなければなりません。

栄養改善のための政府や拠出国の支出は、このように大規模な問題に対応するには極めて不適切です。開発途上国では、栄養改善のための支出は通常、保険衛生費用項目に含まれていますが、そもそもその額は多くありません。例えば、国民1人当たりの国民総生産(GDP)が300米ドル以下のアフリカ諸国では、平均すると保健衛生費は国家歳出の2%未満である上に、栄養改善向けに使われる資金は、その少ない予算の内ほんの微々たる部分に過ぎません。子どもの飢餓対策に割り当てられる拠出国からの資源についても同様に、この問題の大きさからみて十分とは言えません。栄養改善は国家の貧困撲滅戦略で中核をなすものであるはずで、そのための資金確保が最優先されるべきでしょう。子どもの栄養不良の根絶を目指し、集中的に資源を投入し続けることが大きな成果をもたらし、子どもの飢餓をなくすことにつながるでしょう。

中国、インド、ブラジルといった国々は、既に飢餓に対しての取り組みを自ら始めています。この3か国の政府は飢餓の根絶を公に掲げ、努力しています。しかし、政府が飢餓撲滅の旗印の下にまい進している場合でも、国あるいは地域レベルでの取り組みへの世界的な協力関係が必要です。資金拠出国、関係機関、市民団体、その他の民間の人々や団体が国際社会として一緒になって、それぞれの役割を協力して果たしていかなければなりません。

大規模で、調整の取れた、目標の一致した活動はずっと懸案でした。今こそ行動に移さなければなりません。WFPだけでは子どもの飢餓の悲劇をなくすことは不可能です。しかし、食糧が不足していることが栄養不良の主な原因となっていて、WFPが忘れ去られている地域への注意喚起の上で触媒となれる場合には、主導的な役割を果たすことができます。WFPは、各国政府、他の国連機関ならびにNGOと連携しながら、飢えた子どもをなくすためにまい進します。もしも何かしら世界の将来の展望を改善することができるものがあるのだとすれば、それはまさに世界中の飢えた子どもたちの未来を良くすることでしょう。

それは実現できることであり、また実現されなければならないことです。

WFP 国連世界食糧計画は国連唯一の食糧援助機関であり、かつ世界最大の人道援助機関です。飢餓と貧困の撲滅を使命として1961年に設立が決定され、1963年から正式に活動を始めました。ローマに本部を置き、世界各地に現地事務所を設けています。